



スオスダイ！

(こんにちは)

主の御名を賛美いたします。私たちは、2015年3月に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招聘を頂き、主の導きとみ言葉によってカンボジアの地で宣教活動を継続しています。

## 近況報告

皆さまのお祈りにいつも感謝しております。8月にカンボジアに戻ってから早くも3か月が経ちました。11月現在、カンボジアは雨期の終わりが近づいていますが、まだまだ雨の多い日が続いています。朝はカラッと晴れていたかと思うと、午後突然黒い雨雲と共にスコールが来るので、油断なりません。

私たちが奉仕するCBUオフィス教会では、子ども、青年、大人それぞれ新来者が導かれ、また新しい働きが次々と起こされています。主の導きに心から感謝いたします。以下、9月と10月に起きた教会での出来事を中心にお伝えします。



最近のCBUオフィス教会、主日礼拝の様子  
子ども、青年、大人それぞれ新来者が導かれています。

あなたはわたしの魂を死から わたしの目を涙から わたしの足を突き落とそうとする者から  
助け出してくださった。命あるものの地にある限り わたしは主の御前に歩み続けよう。

詩編 116 : 8 - 9

## CBUオフィス教会 日曜学校

礼拝では「主の祈り」を毎回、賛美を通してささげます。カンボジアの伝統的なメロディーに、主の祈りの1つ1つの祈りの言葉をのせた、とても美しい賛美です。子どもたちは、毎週礼拝で聞いていましたが、まだ歌詞を覚えていませんでした。そこで「主の祈り」を覚えてもらうためにも、日曜学校で練習してみました。歌詞には難しいクメール語がいくつか出てきます。例えば「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」の部分です。

しかし子どもたちは、青年スタッフのサポートを受けながら何回も何回も練習して、覚えることができました。礼拝で子どもたちは声を1つにして、はじめて「主の祈り」を、賛美を通してささげました。これ以来、子どもたちは毎回の礼拝で「主の祈り」の賛美ができるようになりました。



ファイルの表紙に好きな絵を自由に描く子どもたち



礼拝にて「主の祈り」の特別賛美をささげる子どもたち

礼拝中、説教の時間はぬり絵をする子がほとんどです。礼拝後、そのぬり絵が無造作に出入り口に捨てられていることがありました。そこで、ファイルを用意し、完成したぬりえを綴じることにしました。子どもたちのほとんどが文字を書けないため、自分のものだと分かるように、そのファイルに自由に絵を描いてもらいました。

最初、子どもたちは絵を想像しながら描くことに戸惑っていました。ひとりひとりに声をかけ励ますと、みるみるうちに、その絵に輝きが増していきました。自分が表紙を描いた、世界でたった一つの素敵なファイルです。完成したファイルの表紙を自慢げに見せに来た子もいました。

来年になれば、ファイルは聖書に登場する人物や、聖書のお話のカラフルな絵でいっぱいになるでしょう。それはまさしく、子どもたち自身が作った「聖書絵本」に他なりません。

## PC初級クラス修了式

PCクラスが始まって早くも1年と数か月が経ちました。10月の礼拝で、初級クラスの修了式を迎えました。1週間前の修了試験に臨んだ3人の青年たちは、皆、見事に試験をクリアしました。この1年、先生を務めたザカリヤさん、ザカリップさんは、毎週、礼拝の後の夕方という疲れる時間帯に、教室でPCとレッスンを準備し、毎回熱心な授業をしてくれました。そのおかげで、全くのPC初心者だった青年たちは、ワード、エクセル、そしてパワーポイントも使いこなせるまでになりました。



礼拝にてPC初級クラス修了式  
左端から、ザカリヤ先生、ザカリップ先生  
ピリップさん、ダービッドさん



PCクラスのひとコマ  
二人の先生の指導のもと、熱心に学ぶ青年たち

二人の先生に心から感謝します。そして1年間学び続けた青年たちもよく頑張ってくれました。

カンボジアの一般家庭、特に教会近くのような貧しい地域では、パソコンや家庭でのインターネットは普及していません。しかし、青年たちは将来のためにパソコンを学びたかったのです。PCミニストリーを行っているNGOとの出会い、そしてPCの購入からクラス立ち上げ、そして今日に至るまでの1年半、全てを導いてくださった神さまに心からの感謝をささげます。年明けから、新しくPCクラスが始まる予定です。準備のためにお祈りください。

## 日本語クラス、開始！

10月下旬、礼拝後の日本語クラスがスタートしました。数か月前から教会の青年たちの間で「日本語を習いたい」という声が高まり、それに応える形で始まりました。生徒は教会の青年たちに加えて、日曜学校メンバーの子どもたちです。青年の一人、ダービッドさんが日曜学校の子どもたちを見ていて、「あの4人はしっかりしているし、日本語に興味がありそうだからクラスに誘ってみては」と、私たちに伝えてきました。その4人は、お祈りのリーダーをしてくれたり、奉仕にも積極的な子どもリーダー的な存在です。クラスに誘ってみると「やってみよう」という答えが来ました。そんなわけで、第1回は青年6人、子ども4人の計10名の参加となりました。



第1回日本語クラス。  
青年6人、子ども4人が参加してくれました。

クラスではプロジェクターを使用し、「こんにちは」「ありがとう」の基本的なあいさつを学んだ後、ひらがなの練習。「し」「く」「つ」などの、一筆書きの簡単なひらがなを学んでいます。ここで教会員のケマさんが飛び入りで参加し、私たちの説明をクメール語で補足して助けてくれたり、習ったひらがなを使って単語を作る時（「くし」「つの」など）すぐにクメール語で書いてサポートしてくれます。ケマさんが入ったことでクラスにより活気が出て、とても明るいクラスになっています。

日本語クラス第1回は、思いもよらないことが起こったり、ハプニングもありましたが、実にクリエイティブで、「カンボジア的」なクラスでした。神様に感謝します。



授業途中から教会員のケマさん（右側）が参加クメール語を使って助けてくれます。

## キリング・フィールド近くの 集落訪問

私たちは、キリング・フィールド（ポルポト時代の処刑場）近くの集落を定期的に訪問しています。教会から歩いて10分ほどです。教会の子どもたちの多くはここに住んでいます。この日、しばらく教会に来ていなかった、女の子の家を訪問しました。家の窓から顔を出した彼女は、以前よりも髪がボサボサで、表情がとても疲れているように見えました。彼女は昼間働きに出ている母親に代わって、小さい妹達の面倒を見ている。そのため、なかなか教会に来られません。「また教会においでね」と声をかけると、彼女はコクンとうなずき、すぐに顔を引っ込めてしまいました。



ドアを開けて姿を見せた彼女は  
すぐに家の中に入ってしまった。



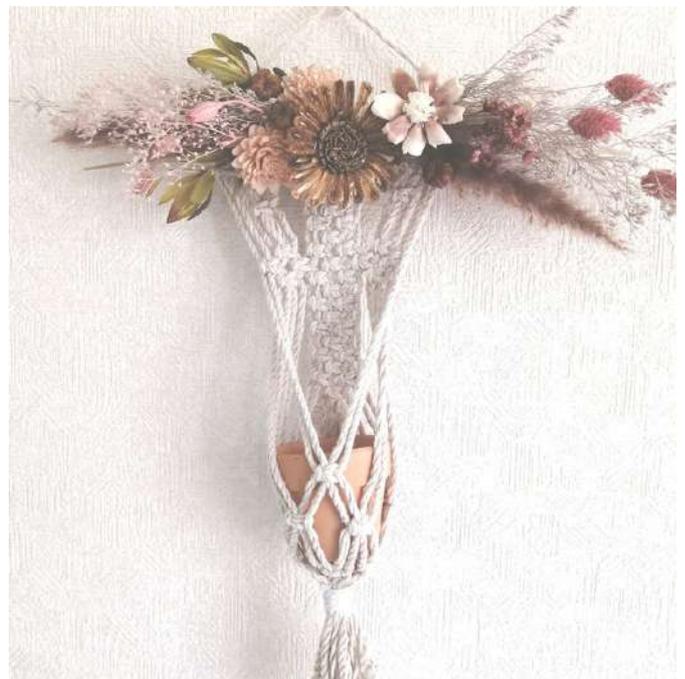
定期的に集落を訪問  
日曜学校の子どもたちが出迎えてくれます

「教会に来て」と呼び掛けるだけでなく、地域に出ていき集落に定期的に通うことで、住民や子どもたちのためにできることが、きっと見えてくると思います。集落に出ていき、住民と会話を重ね、必要に応じて仕えていく中で、何かが変わるかもしれません。彼女の状況も、きっと変えられるという希望を持っています。

ですから、私たちはこの集落の訪問を続けていきます。福音と共に何を届けたらいいのか、何をすることが宣教なのかを知るために。それが、神さまの願い「リビングフィールド」へとつながると信じています。

## 女性支援ミニストリー 「希望の糸」

「希望の糸」とは、マクラメアートを用いたカンボジア女性支援ミニストリーの名称です。6月から8月にかけての日本滞在の期間、「希望の糸」の製品が多くの方の手に渡ったことを感謝しています。8月のカンボジア帰任直前、神さまは、とあるミッションスクールとの関係を導いてくださり、「希望の糸」の商品のオーダーが初めて入りました。9月に注文頂いた製品が完成し、日本へ向けて再び「希望の糸」が海を渡ることになったのです。「希望の糸」の作品は無事に日本へ到着しました。そして、作品を使っのフラワーアレンジメントの講習会が開かれました。



フラワーアレンジメント教室で作られた  
「希望の糸」の作品（マクラメアート）



CBU牧師ミーティングにて  
「希望の糸」を紹介し、証しをするケマさん

10月、CBUの牧師ミーティングがあり、そこで「希望の糸」を紹介する機会をいただきました。ケマさんは、家族の経済的な苦闘、「希望の糸」との出会い、そして作品の制作を通して与えられている希望について、力強く証しして下さいました。またこの日、神様は新しい生徒を送って下さいました。ケマさんの親戚にあたるスレイモムさんです。スレイモムさんはケマさんから、基本の編み方を教わり、ケマさんは、初めて生徒に教えるという恵みを頂きました。課題はいろいろあります。でもそれ以上に、確かな希望があります。「希望の糸」は、確実に、広がっています。

参加者の皆さんが「希望の糸」を手に取り、アレンジを施して、とても素敵な作品ができあがりました。「希望の糸」を通して、講師の先生方、参加者みなさんの上に神さまからの希望が流れていきますように。作り手であるケマさんは、半年前に比べて見違えるほど上達し、自らデザインを考案し、オリジナル作品を作るまでになりました。11月には、日本の教会のバザーにも「希望の糸」の製品が並ぶことになりました。ケマさんら女性たちが紡ぐ「希望の糸」が、カンボジアから日本へ、更には世界へ広がっていくという希望を、主から頂いています。



最初の生徒、スレイモムさん  
ケマさんから基本の編み方を教わっています。



ホープスクール前的大通り。朝は交通量がとても多く、信号もないので、かなり神経を使います。

## 来主と栄主の学校生活

来主と栄主は、プノンペン市内の「ホープインターナショナルスクール」に通っています。8月から新学期が始まり、早くも2か月が経過しました。皆さまの祈りに支えられ、共に学業に、スポーツにと頑張っています。前回お伝えした、自転車での通学にもすっかり慣れました。ただ、現在カンボジアは雨期のため、帰宅時間にスクールが重なったりすることもしばしばです。そんな時は、カンボジア式に雨宿りをして、小ぶりになるのを待ってから、帰宅しています。（雨で道がぬかるんでいるので、雨宿りをする方が安全です。）

ホープスクールでは放課後のクラブ活動があります。運動系ではサッカー、バレーボール、バスケットボールなどです。それぞれのスポーツが通年で活動があるのではなく、約2か月の期間で入れ替わります。8月、9月と来主は高校部のバレーボールに参加しました。レシーバーのポジションでレギュラーを獲得し、他校との対抗試合にも出場しています。11月からは、来主はバスケットボール、栄主はサッカーに参加します。それぞれのスポーツでインター校同士のトーナメント大会があり、その大会を目指して二人とも練習に励んでいます。



サッカークラブの休憩時間、チームメイトと談笑する栄主（左から二番目）

## 「リビングフィールド」の幻

10月、主から1つのみ言葉が与えられました。

「あなたはわたしの魂を死から わたしの目を涙から わたしの足を突き落とそうとする者から助け出してください。命あるものの地にある限り わたしは 主の御前に歩み続けよう」詩編116:8-9

主から与えられたビジョン「リビングフィールド」。それはみ言葉にある「命あるものの地」です。そこは、主から頂きたいのちに感謝し、そのいのちを日々、精一杯喜びを持って生きる者の地でしょう。これからも主の御前に歩み、あの集落の人々に、主にある希望を分かち合っていきたいと祈っています。



キリングフィールド近くの集落、そして地域全体が「リビングフィールド」へ変えられていきますように。

### <祈りの課題>

1. CBUオフィス教会を通しての宣教活動（日曜学校、日本語クラスなど）が祝福されるように。
2. キリングフィールド近くのコミュニティと近隣地域が、福音によって変えられるように。
3. 女性支援活動「希望の糸」が祝福され、ケマさんら女性たちへの支援が広がりますように。
4. 活動や生活のための必要、二人の子ども（来主、栄主）の学費の必要が満たされるように。

嶋田 和幸・嶋田 薫（CBU宣教師）、来主（くろす、14歳）、栄主（えいす、11歳）

（連絡先）Eメールアドレス dekakurosu3927@gmail.com

携帯電話：050-5435-4350（日本から発信可）

（献金振込先）楽天銀行 ノエル支店（支店番号246）

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

